

# 学費負担 生まれた家で差



5月、兵庫県に住む男子学生(19)は大学から届いたメールを開いた。「奨学金の振込はありません」。淡い期待は打ち砕かれた。

男子学生が愛知県内の私立大に入学したのは昨年。シングルマザーとして自分と妹を育ててくれた母(53)が、冠婚葬祭関連の仕事を失った翌月だった。

2020年4月に始まった国の修学支援制度を利用し、年約90万円の給付型奨学金の支給と、年約70万円の授業料の減免を受ける

## 奨学金返済 滞納13万人

国内の奨学金事業の約9割を担う日本学生支援機構によると、2020年度末時点で奨学金の総貸与残高は約9兆5900億円。借りている約616万人のうち現役学生らを除く約463万人が返済中という。

返済を3カ月以上滞納している人は減少傾向にあるものの、なお約13万人(約3%)いる。20年に実施した抽出調査によると、うち3割が非正規労働者で、失業・休職中の人も7人に1人いた。また、7割が年収300万円未満だった。

滞納者に対しては、支払い督促を経て、給与を差し押さえる強制執行などの法的手続きがなされる。支援機構は20年度、438人への強制執行を各地の裁判所に申し立てたという。

参院選の公約では、減額返還の年収要件の緩和(公明)や、返済不要の給付制を中心にした拡充(共産)などが掲げられている。

ことが決まっていた。ただ、授業料は年約160万円。奨学金は金額支払いに充てた。母や、受験を控える妹を思うと、仕送りは頼めない。4万円の家電や光熱費、食費を含めると最低でも月7万円必要だった。飲食店やコンビニのパ

イトをかけ持ちした。今年1月、睡眠時間を削って勉強し、テストに臨んだ。疲れから体調が優れなかった。テストが終わって数日後に発熱し、新型コロナの感染がわかった。

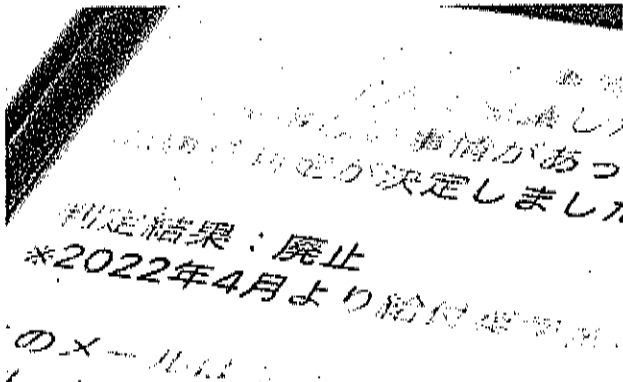
3月、「留年」との通知が届いた。留年すれば、4月からの奨学金の給付はなくなる。母の失業やテスト期間中の体調不良が「やむを得ない事由」に当たらないか。大学側にかけ合ったが、認められないとの回答がメールで届いた。

男子学生は今、休学し、実家からアルバイトに通う。

せつなく入学したのだから学業を続けたい。就職を考える。「大卒」の学歴もほしい。だが、奨学金が支給されなければ、生活は立ちゆかない。貸与型の奨学金や

学生ローンを申請することはないが、必要は借金。そこまで無理して大学に通い続けるべきなのか……」。結論を出せずにいる。

大阪府の看護師の女性(30)は、総合病院の整形外科で働く。シングルマザーの家庭に育った。父は自分が3歳の時に失踪した、と母から聞いた。家計に余裕はなく、奨学金を高校で約60万円、大学で約570万円



男子学生が大学から受け取ったメールには「判定結果：廃止」と書かれていた

円借りた。27歳で看護師となり、返済が始まった。当時の残高は、計600万円強。毎月3万3千円ずつ、20年かけて返す計算だった。返済を始めると、家計を支えていた父が消え、困窮した母の姿が思い浮かんだ。病气やけがで、私もお金に困るかもしれない。借金を抱えていることが、急に怖くなった。繰り上げて返済するため風俗店で月3回ほど働くことにした。病院での夜勤を終え、午前11時ごろ帰宅。3時間ほど仮眠し、店に出勤する。稼金は1日約10万円。収入は奨学金の返済のほか、貯蓄に回す。「奨学金には感謝しています。でも、生まれた家によって負担の差が大きすぎませんか」参院選では複数の政党が奨学金をめぐる政策を公約に掲げた。同じ苦労を若い世代がしないよう、投票先を慎重に選びたいと思う。(楳入彩、田中紳朗)